

令和7年度 強度行動障害支援者養成＜実践＞研修 2日目テキスト

研修資料	ページ
⑥ 【講義】関係機関（医療機関）との連携	1～29
⑦ 【演習】支援手順書の作成 ①アセスメントに基づく支援書の作成	30～54
⑧ 【講義】実践報告	資料なし
⑨ 【演習】支援手順書の作成 ②アセスメントに基づく支援書の作成	56～73
⑩ 【演習】記録の分析と支援手順書の修正	74～104

ページ

⑥ 【講義】関係機関（医療機関）との連携

1～29

和歌山県強度行動障害支援者養成研修（実践研修） ～医療機関との連携～

強度行動障害と医療

紀南こころの医療センター 精神神経科 糸川秀彰

■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
4. 薬物療法について
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
4. 薬物療法について
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

医療から見た「強度行動障害」

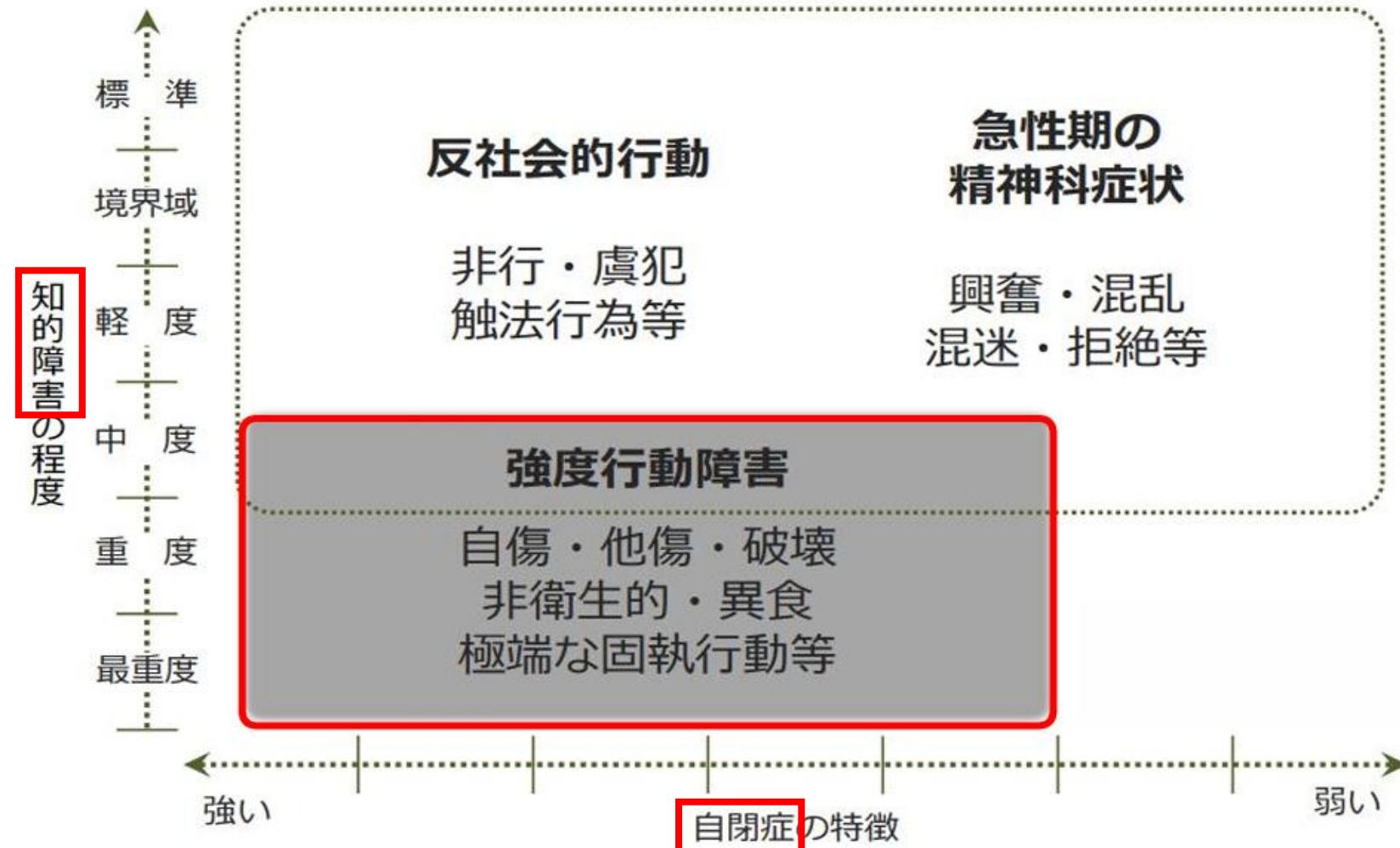
「強度行動障害」という用語は、医学用語ではなく、福祉用語、時には行政用語として用いられている。

現場での激しい他害や自傷は大きな問題であり、これを分類する必要性は明白。

一方で、医師は「診断」を基に適切な方針を決める役割を担っており、この用語は慣れていない。

強度行動障害のある人を支えるヒントとアイデア 西田武志など から改変

強度行動障害の範囲



(出典) 第1回強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会（令和4年10月4日）資料を基に作成

強度行動障害の範囲

60～80%が、

中等度以上の**知的障害**

+

中等度以上の**自閉スペクトラム症**

■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
4. 薬物療法について
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

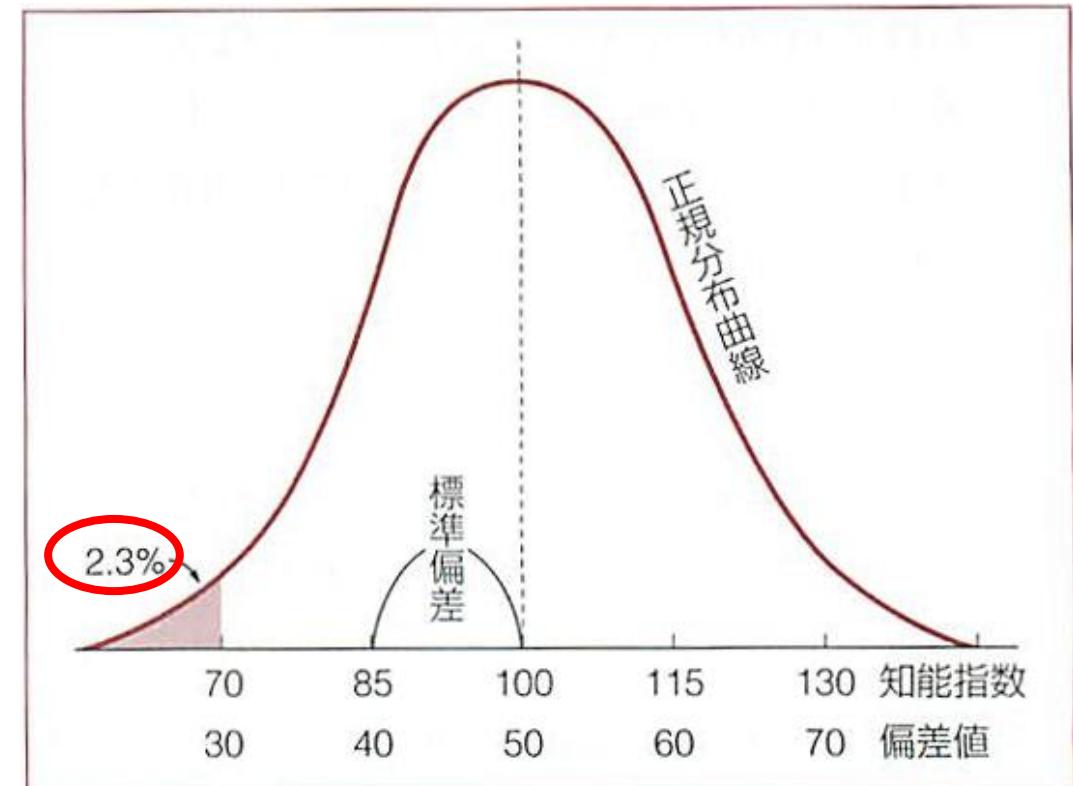
知的障害

発達期に気づかれ、①概念的・②社会的・③実用的など複数の領域において、知的と適応の機能に障害がある

①概念的領域：読字、書字、算数、時間、金銭管理などが不得手

②社会的領域：会話が単純、判断能力や意思決定能力が限定的など

③実用的領域：食事、身支度、入浴、排泄などが他者に依存、また他害・自傷などの不適応行動を認める



自閉スペクトラム症 (DSM-5)

- ① 社会的コミュニケーションと相互作用の障害
 - ・視線が合わない
 - ・他者の表情や気持ちを理解できない
 - など

- ② 限定された、あるいは反復的な行動、興味、活動
 - ・環境変化に順応できない
 - ・感覚異常 (聴覚、嗅覚など過敏)
 - ・意味のない習慣に執着
 - ・常同
 - ・反復的な言語
 - など

自閉スペクトラム症（パニックの原因）

① 感覚の異常（聴覚、嗅覚の過敏）

- ・ドライヤーの音、車のクラクションなどでパニックになる
- ・臭いのために入室できない
- ・下着のタグを嫌がる、スキンシップを嫌がる
- ・味覚敏感で極端な偏食

② タイムスリップ現象

- ・過去の出来事での場面が想起され、さも今現在受けているかのように感じ、混乱・興奮状態となる
- ・過去の不快な出来事の「フラッシュバック」と類似している

フラッシュバックとタイムスリップ現象の違い

心的外傷（トラウマ）による「フラッシュバック」

過去の、恐怖や苦痛を伴うトラウマ体験が、特定のきっかけ（音、匂い、光景など）によって突然鮮明によみがえり、当時の恐怖や苦痛を再体験する症状。

自閉スペクトラム症における「タイムスリップ現象」

過去の出来事（辛かった体験だけでなく楽しかった体験でも）が、唐突に現在の体験に侵入してくるもの。単に思い出すというより、まるで今その瞬間に経験しているかのように感じられる。

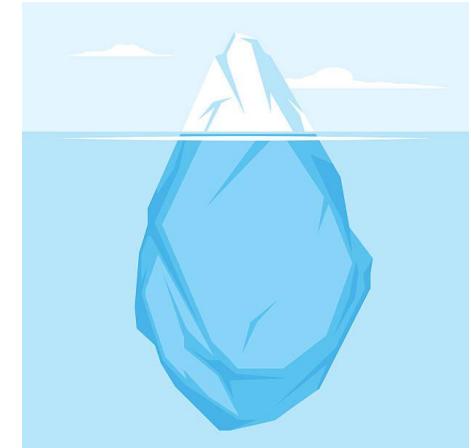
■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
4. 薬物療法について
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

強度行動障害への対応

■ 何が起こっているのかの評価

- ・ 他害・自傷・パニックなど



■ 医療ができる対応

- ・ 【身体疾患・精神疾患】がないかの確認
 - ・ 治療 【薬物療法】
 - ・ 環境調整 【入院治療も含め】
- ⇒新たな行動レパートリーの獲得

身体疾患による行動障害

■ (痛みやかゆみなど) 不快な症状が、強度行動障害に似た症状を来しうる。

- 感染症 (う歯、感冒、膀胱炎、中耳炎など)
- アレルギー疾患 (皮膚炎、鼻炎など)
- 消化器疾患 (胃潰瘍、胃腸炎、便秘、腸閉塞など)
- 呼吸器疾患 (喘息など)
- 内分泌系 (月経関連など)
- 外傷 など
- その他：てんかん発作、薬の副作用 など

■ 精神疾患の合併がないか（2大疾患）

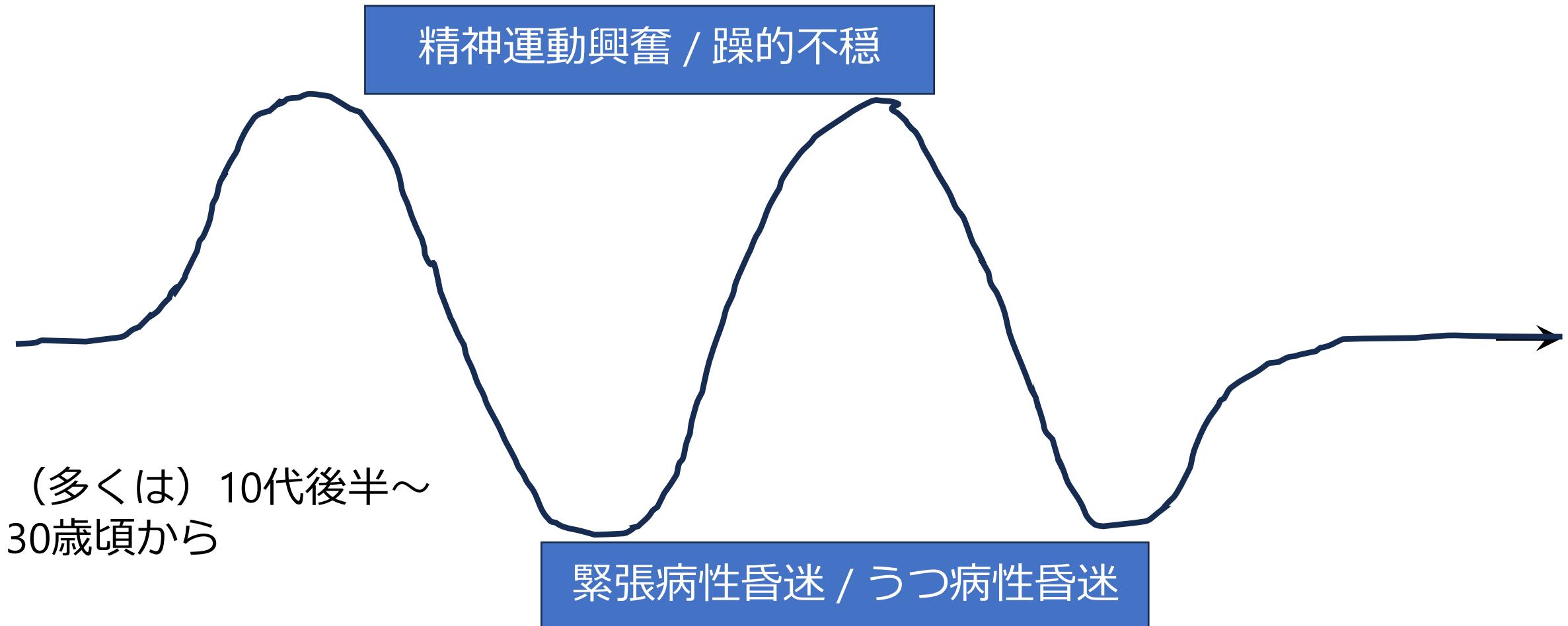
- **統合失調症**

陽性症状（幻覚、妄想、興奮）と
陰性症状（感情の平板化、意欲欠如）が出現。
思春期から青年期に発症しやすい。

- **気分障害**

- 双極性障害：躁状態とうつ状態
 - 躁状態：気分が高揚し、過活動、易怒的、睡眠時間の減少
 - うつ状態：抑うつ気分、意欲低下、不眠or過眠、食欲低下or過食
自殺企図、自傷行為など

未治療の統合失調症、躁うつ病は変動が大きい



■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
- 4. 薬物療法について**
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

強度行動障害に対する薬物療法

■元の「障害」が治るわけではない（対症療法）

治療目標を特定すべき

- ①攻撃的な言動
- ②反復的な言動
- ③睡眠障害

吉川徹先生『重度知的障害を伴うASDの医療～特に強度行動障害に関して』（YouTube）

①攻撃的な言動

- 主に、抗精神病薬
 - 自閉スペクトラム症の「易刺激性」に対して、2種類の抗精神病薬が承認されている。
 - リスペリドン（リスペリドール[®]）
 - アリピプラゾール（アリピプラゾール[®]）

【適応外】で、より効果の強い抗精神病薬も

（ハロペリドール、レボメプロマジン、オランザピンなど）

貼付剤（ロナセンテープ[®]）も拒薬時に有効かも？

⇒ただ、全ての易刺激性に効くわけではない。

①攻撃的な言動

行動が生じている原因により、効果に差がある

- (1)不快な感覚刺激（嫌な音など）からの逃避
- (2)要求が通らず、辛抱はできるが、いらだちが続く
→ 【ある程度効く】

- (3)攻撃そのものや、その結果に楽しみ
- (4)要求が通らない場面で、納得できず続ける攻撃
→ 【あまり効かない】

吉川徹先生『重度知的障害を伴うASDの医療～特に強度行動障害に関して』（YouTube）

②反復的な言動

行動が生じている原因により、効果に差がある

【ある程度効く】

(1)不安・強迫症状としての反復行動

反復行動を

「やっても楽しそうに見えない」「やるとほっとするように見える」

⇒強迫性障害の治療：抗うつ薬（SSRIなど）や抗精神病薬など

【あまり効かない】

フルボキサミンなど

エビリファイ[®]など

(2)遊びとしての反復行動：「やっていると楽しい」「退屈しおぎ」

③睡眠障害

有効性は期待できる。

- ・睡眠薬

- ① オレキシン受容体拮抗薬：デエビゴ[®]など
- ② 抗精神病薬などの使用もあり

以前は③ベンゾジアゼピン系睡眠薬（エチゾラム、フルニトラゼパムなど）
認知機能低下、脱抑制などの副作用のため使用は減少

■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
4. 薬物療法について
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

入院でできること

- ・狭義の精神疾患、身体疾患の治療
- ・施設や在宅からの一時的なレスパイト入院
 - ・本人の保護（暴力・自傷など）、休息
 - ・これまでの「施設や自宅による支援」の見直し
- ・行動障害そのものを軽減するための治療
 - ・「転地療法」によるリセット。「偶然」に行動障害が止まることも
 - ・標的行動を決めて**支援と並行して薬物調整**を行う
- ・関係機関との情報共有、さらなる連携の模索

入院環境の特殊性・問題点

ふだんの生活環境と異なる、慣れない場所、日課、支援者など

- ・多くの場合、隔離・時には身体拘束が必要となる
- ・行動の評価・観察の機会としては不充分
- ・薬物療法の効果判定も不明瞭

⇒退院後に、行動障害はむしろ悪化することも

⇒最悪、入院環境でしか適応できなくなる可能性がある

←短期間の入院にとどめるべき

■ レジュメ

1. 医療から見た強度行動障害
2. 知的障害と自閉スペクトラム症について
3. 合併しうる身体・精神疾患について
4. 薬物療法について
5. 入院治療について
6. 精神科をうまく利用するために

5.精神科をうまく利用するために

- ・短い時間で正確に伝える（事前の共有が望ましい）
 - ・いつから、どんな症状があるのか
 - ・睡眠、食欲、体重の変化は必ず必要
 - ・**普段のその人と、どう違うのか**
 - ・**一覧表や動画**があるとわかりやすい
- ・具体的で正確な記録がいのち
 - ・専門用語は使わない
 - ×うつ状態 ○表情が乏しい、あまり部屋から出てこない
 - ×注目行動 ○こちらを見ながら呑いた
 - ・何を記録するのか、周知しておくこと
 - ・不適切な行動は、どう終わって、その後どうなったのか

ご清聴ありがとうございました

ページ

⑦ 【演習】支援手順書の作成
①アセスメントに基づく支援書の作成

30~54

手順書の作成

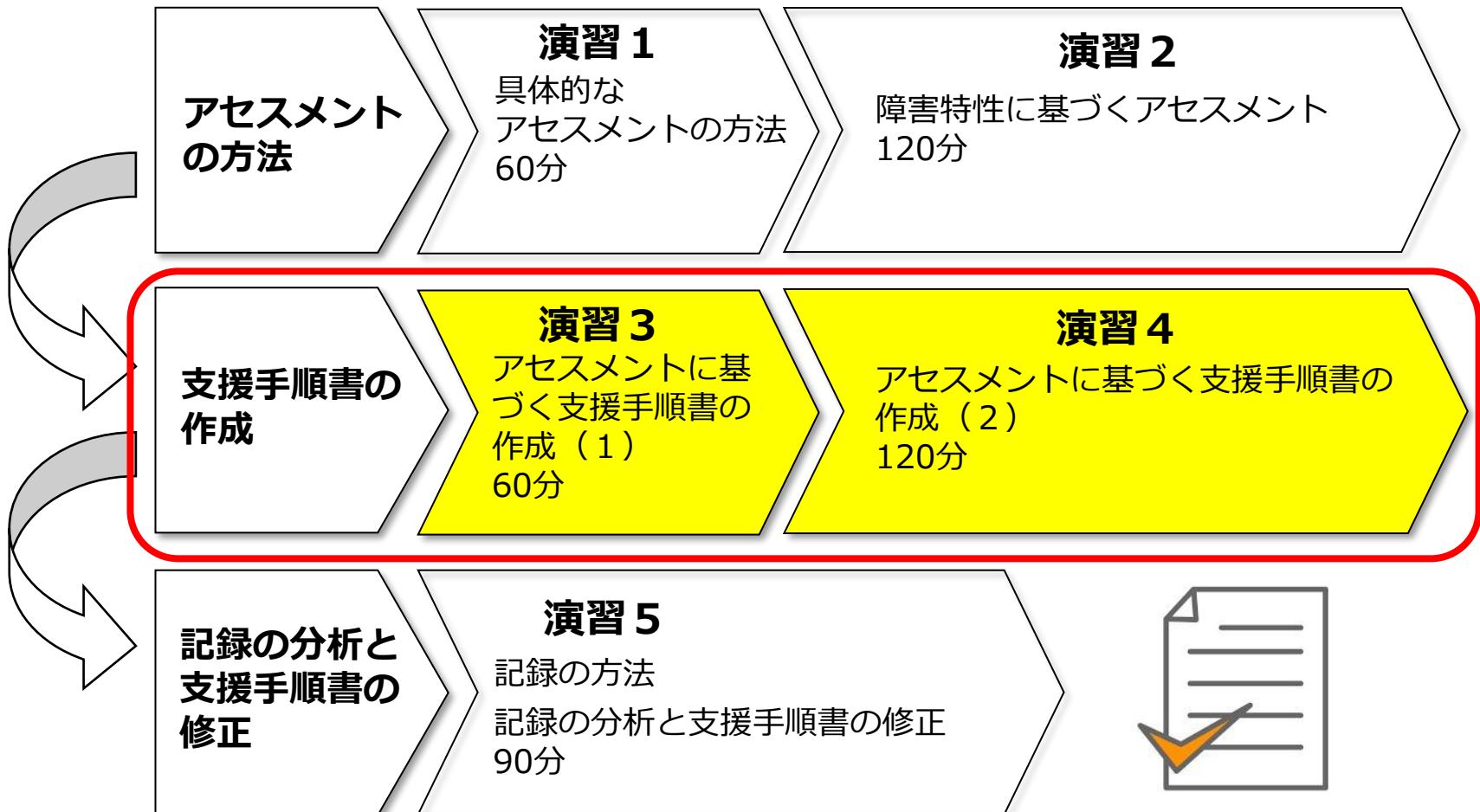
- ・アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）
- ・アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）

社会福祉法人紀伊の郷 日置川みどり園
生活支援員主任 藤川 和貴

この時間で学ぶこと

- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書の作成方法を学びます。

演習の流れ



手順書の作成

- ・アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）

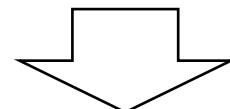
支援手順書の
作成

演習 3

アセスメントに基
づく支援手順書の
作成（1）
60分

演習 4

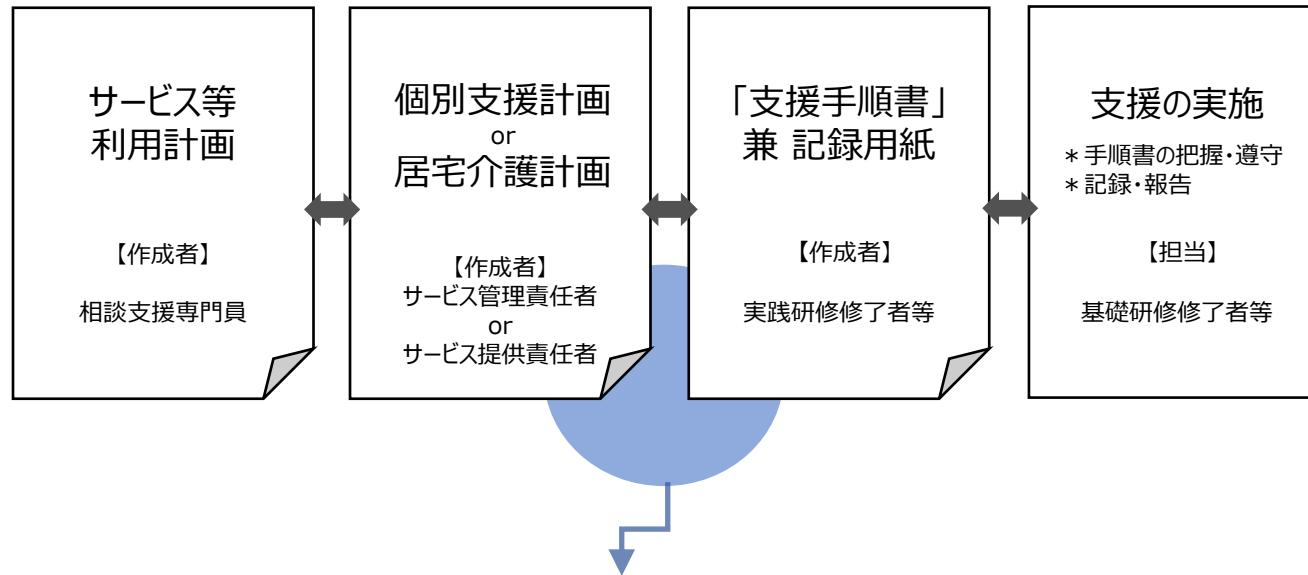
アセスメントに基づく支援手順書の
作成（2）
120分



- i) 支援手順書について
- ii) 支援手順書の作成
 - 氷山モデルの完成
 - 活動の手順を決める

i) 支援手順書について

個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れでしていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

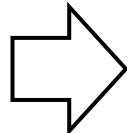
支援手順書



個別支援計画の内容から、具体的な活動とその工程・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの



グループホーム
個別支援計画



具体的な活動の例



(工程確認)
支援手順書



(お風呂掃除)
支援手順書

具体的な活動や必要な配慮

現場で支援を実施するときには、支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援



現場で支援する人が統一して支援ができるよう、根拠があり、分かりやすい支援手順書を作成することが大切

田中さんのサービス等利用計画

サービス等利用計画

利用者氏名(児童氏名)	田中正則さん	障害支援区分	区分6	相談支援事業者名	○○相談支援事業所			
障害福祉サービス受給者証番号	○○○○○○○○○○	利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	○○○○			
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号						
計画作成日	○年△月□日	モニタリング期間(開始年月)		3ヶ月(次回:○年□月)	利用者同意署名欄			
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	<p>グループホームで暮らしながら、自分の望む生活を送りたい。 週末は、外出をして好きなところにでかけたり、公園で遊んだり、買い物をしたいと思っています。</p>							
総合的な援助の方針	本人が落ち着いて活動できるように、環境を整えながら自分から積極的に活動できるように手伝えます。							
長期目標	自分で予定を理解し、グループホームで自分らしい生活がおくれるようになる。							
短期目標	気になることがあるとずっと続けてしまったり、思うように活動できないとパニックになってしまふので、落ち着いて活動できるようになりたい。							
優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名 (担当者名・電話)			
1	平日、毎日通い安定した生活リズムを維持しながら、仕事をがんばりたい。	無理しすぎない程度に仕事を設定して、1日の日中の活動リズムを組み立て生活する。	6ヶ月	生活介護 8日／月 10:00-16:00 軽作業、余暇活動など	○○生活介護 担当: Aさん 電話: ○○-△△△△	決めた日程に沿って活動し、落ち着いて過ごせるようなリズムを整えていく。	3ヶ月	落ち着かない時は、原因を分析しながら、本人がわかりやすい環境などを整えてください。
2	不安な気持ちを和らげ穏やかに生活を送りたい。	落ち着いて活動できるような環境を作りながら、安心して暮らせるようになる。	3ヶ月	生活介護 8日／月 共同生活援助	○○生活介護 担当: Aさん グループホーム△△△担当Bさん	不穏になった時に、何が原因なのか表現できるように環境や道具を揃え得ていく。	3ヶ月	不安なことを伝えられない様子がありましたら、環境設定をお願いします。
3	休みの日は、外に出かけて、楽しく過ごしたい。	休日で天気の良い日は、外出し好きなところに遊びにいく。	6ヶ月	行動援護 40時間／月 (週休2日のうち、どちらか)	ヘルバーステーション 担当: Cさん	遊びたい事などを、順番や時間を決めて、楽しめるようになる。	3ヶ月	好きな事はやり続けてしまうことがあるので、気をつけながら楽しく過ごせるように支援をお願いします。
4	困ったことがあって、普段関わる人に相談しづらい時に相談したい。	自分では解決できない悩みや疑問を気軽に相談できるように。	6ヶ月	計画相談	○○相談支援事業所	定期的に訪問してもらった時などに、不安な事があったら相談する。	6ヶ月	定期訪問以外の時に話したいような訴えがあった場合は、職員を通じて連絡をください。

田中さんの個別支援計画

生活介護事業所□□□

個別支援計画

利用者氏名:田中正則さん

○年○月○日

サービス等利用計画の総合的な援助の方針	本人が落ち着いて活動できるように、環境を整えながら自分から積極的に活動できるように手伝えます。
利用者及び家族の希望・ニーズ	予定を理解し、見通しをもって自分で活動できるようになりたい。
総合的な援助の方針	混乱しないよう環境を整え、わかりやすく予定や活動内容を伝え、自分で動けるように支援する。
長期目標	自分で予定を確認し、自分で活動内容を理解して動けるようになる。
短期目標	視覚的な手がかりを頼りにして、作業の時間を1人で最後までできるようになる。

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的な到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	担当者	優先順位
活動の流れを理解し取り組むことで見通せない不安を解消する	予定を確認して理解して動く	本人が理解できる予定の伝え方を見つけ、確実に伝わるように環境を整える。 予定が理解できず、混乱することを減らし、活動に参加できるように工夫する。	1ヶ月ごとに状況を確認する(3ヶ月後にモニタリング会議を行う)	A	1
活動に取り組みやすくすることで、生活リズムを整える	作業をする場所に自分で移動し、わかる作業を最後まで行う	声かけをしなくとも、理解して作業を始められるように環境を整える。声かけで混乱をさせないように気をつける。	作業時間に集中的に行う 1ヶ月後に状況を確認する(6ヶ月後にモニタリング会議を行う)	A	2
外出を楽しみに活動できるようになる	外出の日程を理解し、外出を楽しむ	「おでかけ」という言葉や絵本の車で外出できると勘違いすることなく、どこを頼りにすればいつ外出があるのかわかるように工夫する。	月に2回程度 3ヶ月後に状況を確認する	A	3

本人への説明

年　　月　　日

利用者氏名

41

サービス提供責任者名

これが「支援手順書（例）」です

支援手順書/記録用紙

日付け	2000年0月×日	氏名	Tさん	記入者	支援員B
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	Tさんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	Tさんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時はTさんの前に出てjesusチャーチで止まる様に促す。 公園に近づくと走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前に手を出すjesusチャーチで止まる様に促し、支援者が安全確認する			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認。(活動カードを外す) ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える * Tさんが水遊びを始めた時は、タイマーを1分にセットし、Tさんに見える様にセットし、「1分でおしまい」と声掛け。 タイマーが鳴ったらTさんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すがあるので、本人の前に出てjesusチャーチで止まってもらい支援者が安全確認。 店の前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。			
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す) 家族にTさんの様子を伝える。			

- * スケジュール確認の手順
 ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
 ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
 ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し単語で伝える
- * 本人と関わる際の注意点
 ・声掛けが多くなると混乱しやすいので、声かけは最小限にする
 ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことがある
 ・事前にjesusチャーチで止まる様に促し支援者が安全確認する

今回使用する 支援手順書

支援手順書に関しては特に指定された書式はない

- 活動の工程ごとに、
- 本人の動き
- 支援者の動き・留意点

支援後に
•本人の様子 (記録)
を記入する

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

ii) 支援手順書の作成

※今回使用するシートは支援手順書の一例です。
支援手順書に決まった様式はありません。

○氷山モデルの完成

補助シートを使って作成した氷山モデルを完成させます。

必要なサポートに記載した「支援のアイデア」と「強み（ストレングス）」を活かした支援の具体的な内容を考えます。

グループワーク | 必要なサポートの具体的な内容を考える

1. 必要なサポートの具体的な内容をグループ
で話し合います
※氷山モデルシート（グループ用）に記入

課題となっている行動
作業中に自傷をする

本人の特性

環境・状況

「支援のアイデア」や「活かせそうな強み」の内容を根拠にして具体的なサポートの方法を記入する。

支援のアイデア

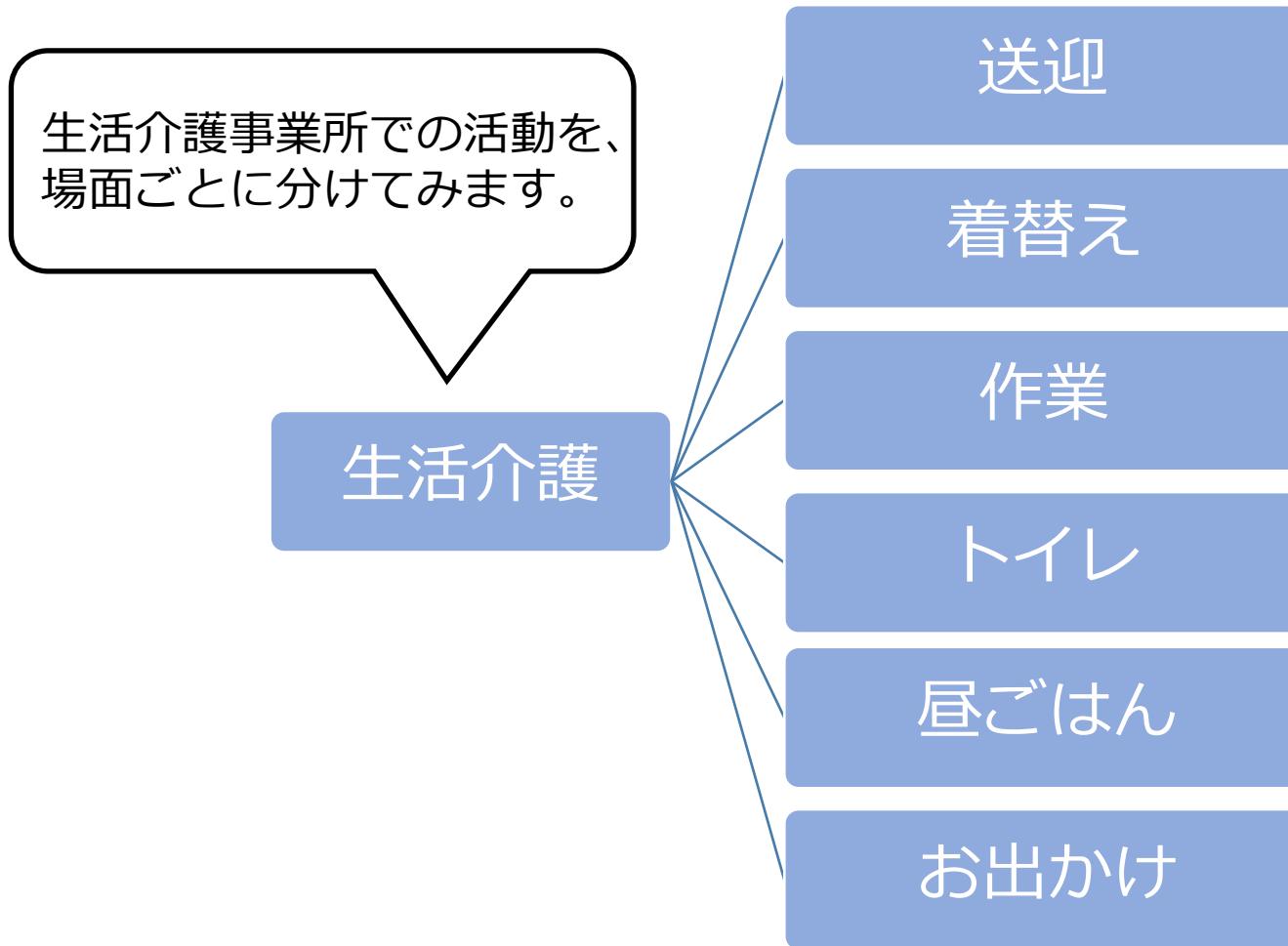
必要なサポート

具体的なサポート

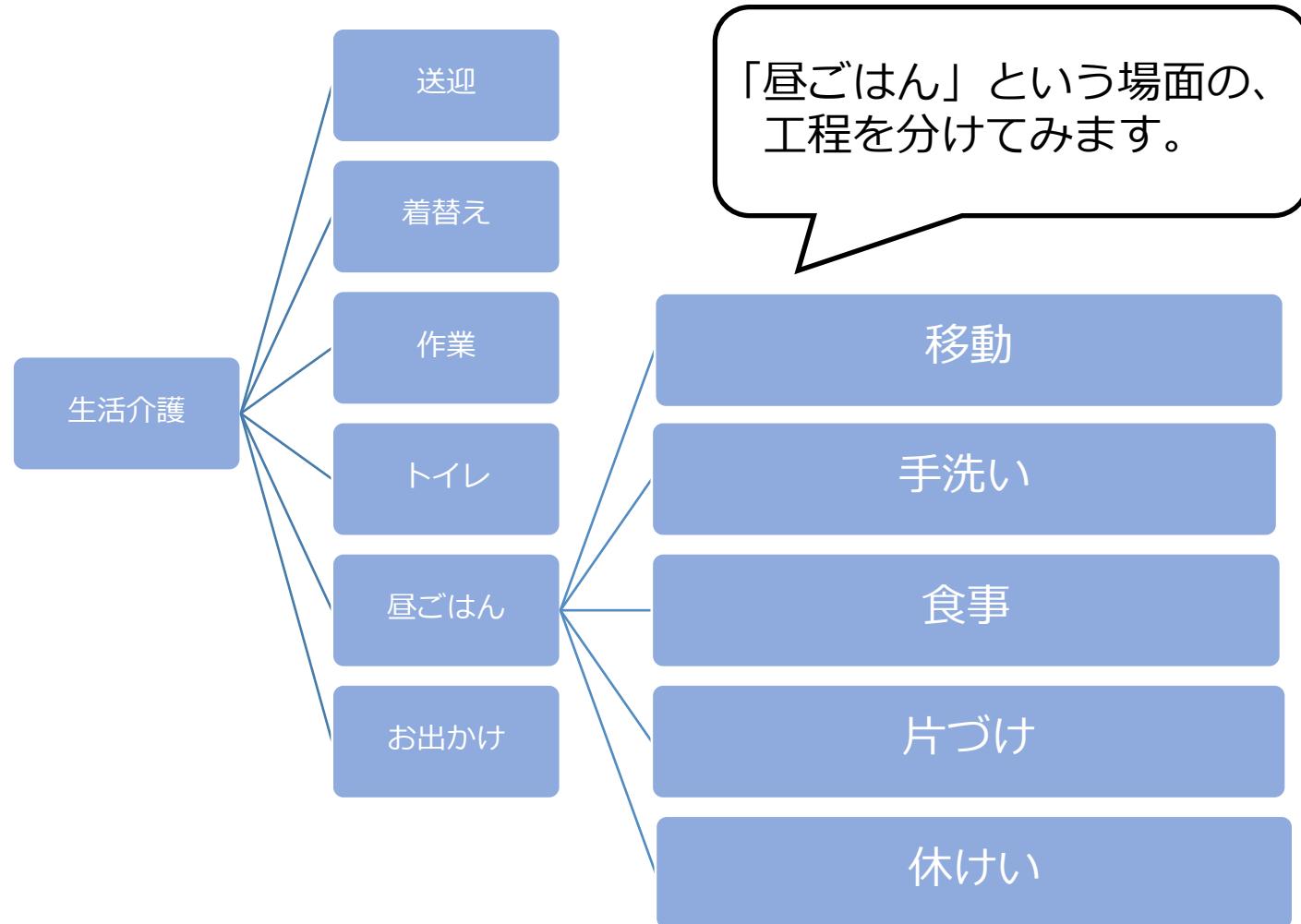
本人の強み→活かせそうな場面や状況

○活動の手順を決める

1. 場面を分ける



2. 活動の工程を分ける



【昼ごはん】

支援手順書に 落とし込む

日付け	20〇〇年〇月 × 日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員 B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備					
移動					
手洗い					
食事					
片づけ					
休けい					

田中さんの作業場面での工程 (作業室へ移動から休憩まで) を考えます

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

個人ワーク | 活動の工程を考える

1. 田中さんの作業の場面での工程を考えます。
2. 支援手順書に工程を記入します。

グループワーク | 活動の工程を考える

1. 田中さんの作業の場面での工程を共有
し、グループの工程を決定します。

工程の共有 (記入例)

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備					
移動					
作業①					
作業②					
作業③					
移動					
休憩					

ページ

⑧ 【講義】実践報告

資料なし

ページ

⑨ 【演習】支援手順書の作成
②アセスメントに基づく支援書の作成

56~73

手順書の作成

- ・アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）

社会福祉法人紀伊の郷 日置川みどり園
生活支援員主任 藤川 和貴

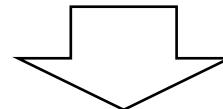
**支援手順書の
作成**

演習 3

アセスメントに基
づく支援手順書の
作成（1）
60分

演習 4

アセスメントに基づく支援手順書の
作成（2）
120分



ii) 支援手順書の作成

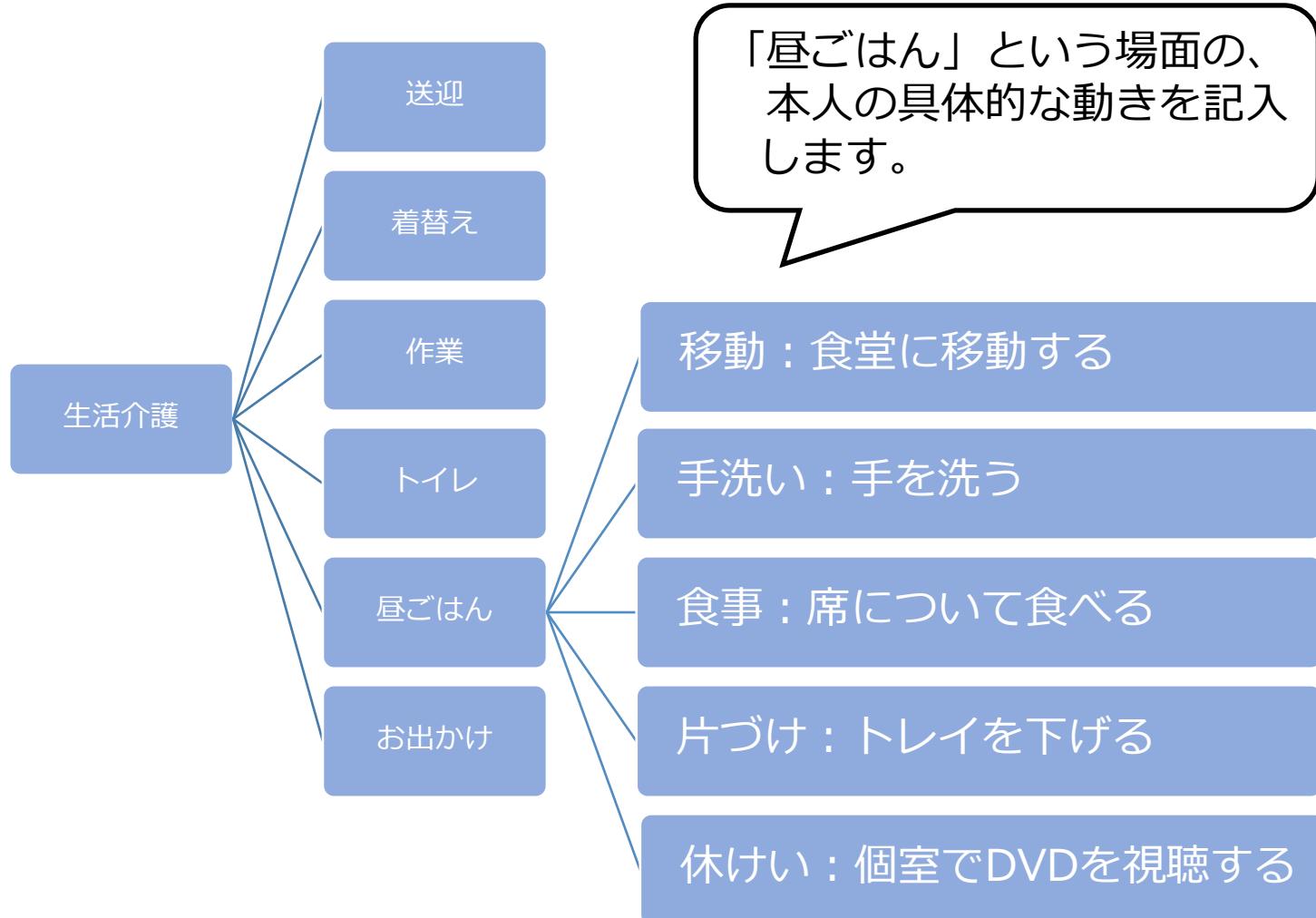
- 本人の動きを想定する
- 支援者の動きや必要な配慮を考える

工程ごとに本人の動きを想定して
記入します

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

工程ごとに本人の動きを考える



身近なことの手順を考えてみましょう

カップラーメンを作る動き 1.
を順番に考えてみましょう。 2.
3.
4.
5.
..

個人ワーク | 活動の手順を考える

1. 工程ごとに本人の動きを想定します。
2. 支援手順書に本人の動きを記入します。

グループワーク | 活動の手順を決める

1. 場面ごとの想定される本人の動きをグループで共有します

※支援手順書（グループ用）に記入

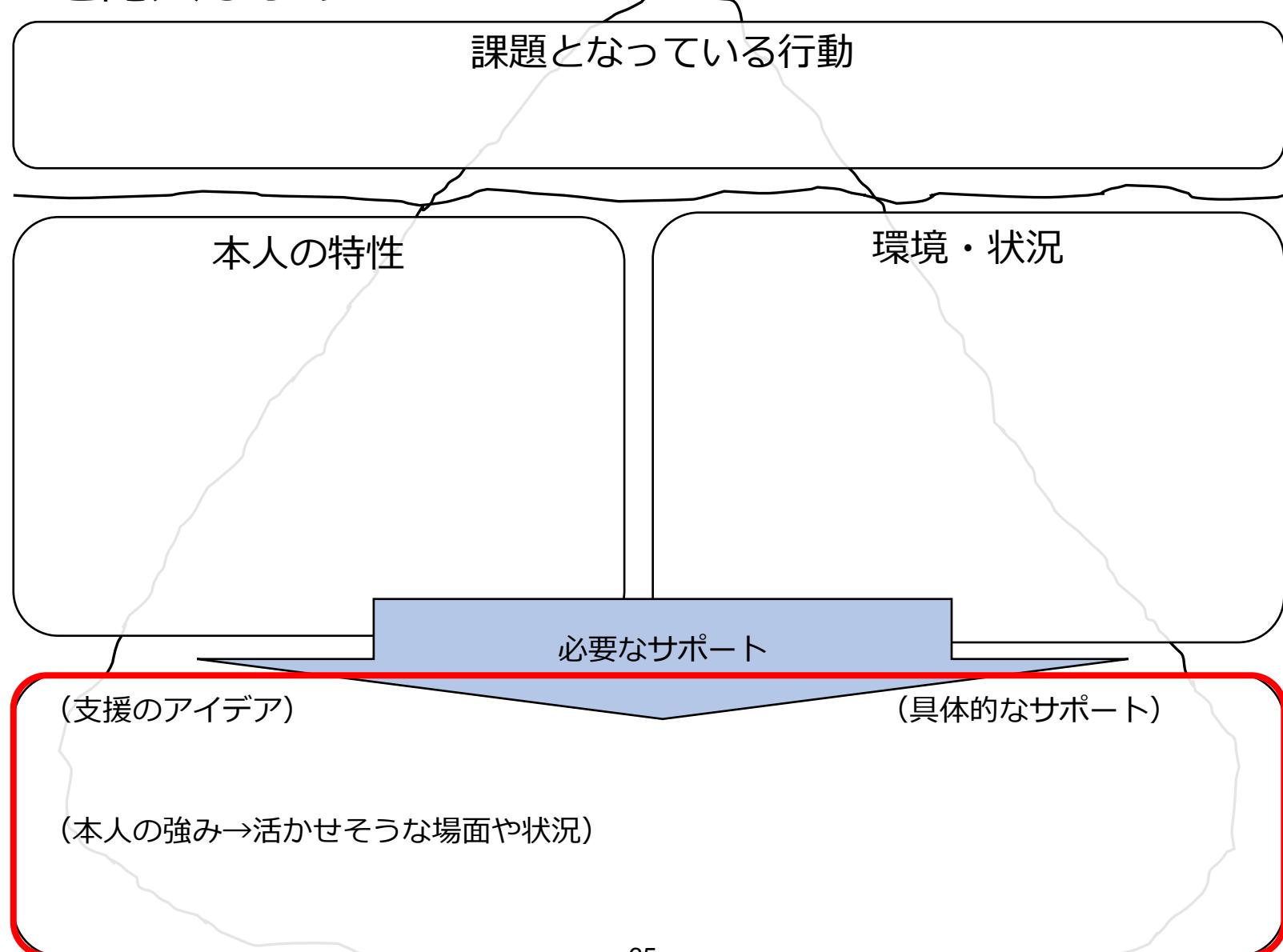
○支援者の動きや必要な配慮を考える

1. 当日までに準備しておくことを記入する。
 2. 氷山モデルの「必要なサポート」欄を根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入する。
 3. 当日の事前準備を記入する。

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

必要なサポートを根拠に、支援者の動きや必要な配慮を記入します



1. 当日までに準備しておくことを記入します

当日までに準備しておくことも考えます。

- 1 (1) 事前に室内の環境で確認しておくこと
(2) 支援ツールなど事前に作っておくもの・用意しておくものなど

※今回は、支援手順書の下の欄に記載してください。

支援手順書/記録用紙 【作業場面】

1

2. 支援者の動きや必要な配慮を記入します

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

3. 当日の事前準備を記入します

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

支援手順書作成

支援者の動きや必要な配慮を考える

必要なサポートを根拠に

1. 当日までに準備しておくことを記入します

(個人ワーク5分→グループワーク10分)

※ 5分経ったらアナウンスするのでグループワークに移って下さい

支援手順書作成

支援者の動きや必要な配慮を考える

2. 支援者の動きや必要な配慮を記入します

(個人ワーク5分→ グループワーク10分)

※5分経ったらアナウンスするのでグループワークに移って下さい

支援手順書作成

支援者の動きや必要な配慮を考える

3. 当日の事前準備を記入します

(個人ワーク5分→ グループワーク15分)

※ 5分経ったらアナウンスするのでグループワークに移って下さい

早く完成したグループは手順書全体の微調整を行ってください。概ね完成してから見えて来るものや新しいアイディアがでてくるかも

発 表

1. 活用した氷山モデルの必要なサポート
2. 当日までに準備しておくこと
3. 当日の事前準備の内容
4. 活動の手順と支援者の動きや必要な配慮

まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、支援者が統一した支援をすることが重要。そのために支援手順書を作成する必要があります。
2. 支援手順書は、アセスメントを根拠に作成することが原則で、工程ごとに丁寧に組み立てます。

ページ

⑩ 【演習】記録の分析と支援手順書の修正

74～104

記録の分析と支援手順書の修正



社会福祉法人

つわぶき会
TSUWABUKIKAI

岩橋 正悟

記録の分析と支援手順書の修正

- ・記録の方法
- ・記録の分析と支援手順書の修正

この時間で学ぶこと

- PDCAサイクルで支援を改善していくために必要な、記録に基づく支援手順書の修正方法を学びます。
- PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していくの流れのことです。

この時間に必要なワークシート

- ・ワークシート⑩ 支援手順書_修正用
- ・ワークシート⑪ 支援手順書_修正用(グループ用)

演習の流れ



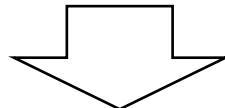
記録の分析と
支援手順書の
修正

演習5

記録の方法

記録の分析と支援手順書の修正

90分



- i) 記録に基づく支援の振り返り
 - 支援の振り返りと修正の重要性
 - 田中さんの支援の記録

- ii) 支援手順書の修正
 - 支援手順書の記録の確認
 - 支援の修正の方向性
 - 支援手順書の修正

i) 記録に基づく支援の振り返り

○支援の振り返りと修正の重要性

正確なアセスメントの難しさ

本人はコミュニケーションや自分自身で振り返ることが苦手（自閉症の特性）

支援現場には混乱を助長する環境がある場合もある

支援の修正の重要性

支援者は、できるだけ客観的な情報を集め、仮説に基づき支援を考える。
(= 支援手順書の作成)

支援を実施し、結果を振り返るプロセスの中で成果を確認し、アセスメントを深める
(= 支援手順書の修正)

スモールステップでより良い支援を作り上げていく。

実施した記録が
重要

○田中さんの支援の記録

- ・ 支援手順書の確認
- ・ 動画の視聴
- ・ 「本人の様子」欄への記録

個人ワーク | 支援手順書の記録

1. 動画を見て、支援手順書の「本人の様子」
の欄に記録をします

**★ワークシート^⑩ 「支援手順書_修正用」
を用意してください**

田中さんの 支援手順書

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員 B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）		
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、 田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く			
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

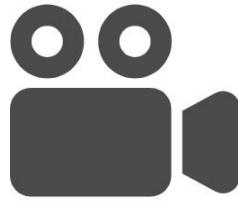
*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作つておく

*「おでかけ」と言われた時の対応

・「おでかけ×」カードを見せて、今やつていることを続けてもらうようする

*本人と関わる際の注意点

・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）



動画の視聴

支援手順書の記録の記入

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）	
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く			
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			
*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作つておく *「おでかけ」と言われた時の対応 ・「おでかけ×」カードを見せて、今やつていることを続けてもらうようにする *本人と関わる際の注意点 ・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）					

グループワーク | 支援手順書の記録の共有

1. 司会・記録・発表を決めます
2. 支援手順書の記録の内容をグループで共有します

※支援手順書_修正用（グループ用）に記入

ii) 支援手順書の修正

○支援手順書の記録の確認

支援手順書に沿って支援を実施した際の、本人のそれぞれの行動について、記録に基づいて確認する。

本人が想定と違う動きをしている時には
しっかり観察して記録する。
課題となる行動に発展しやすく、支援の見直しをするポイントとなる。

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）	
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く			
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作っておく

*「おでかけ」と言われた時の対応

・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする

*本人と関わる際の注意点

・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）

○支援手順書の記録の確認

例えば「作業①」の工程で

想定した行動

本人の様子

着席し作業①をする
終了したら作業②が
出てくるのを待つ

違い

着席し作業①に取り
掛かり、終了したら「お
でかけ」と立ち上がる

支援手順書の見直しが必要

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

日付け	2000年0月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）	
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけ×カード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※入口近くのテーブル席に座らないように、 田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業① +掛けて見守り 作業② +片付ける	着席し作業①に取り 掛かり、終了したら「おでかけ」と立ち上がる		
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作成しておく

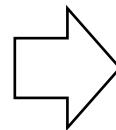
*「おでかけ」と言わされた時の対応

・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする

*本人と関わる際の注意点

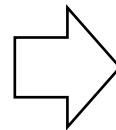
・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）

1.自立して取り組める。
期待した成果がでて
いる。



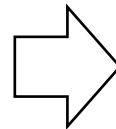
支援を継続する。
生活の中で広げていく。

2.少し手助けが必要。
十分ではないが成果
がでている。



支援内容を分析し、より
効果的な支援を検討する。
より自立できるよう支援
手順書を手直しする。

3.全くできない。
成果がない。



支援そのものを見直す。

それぞれの行動ごとに見ていくことで、
手直しのポイントがつかみやすい

(参考)

「スキルの確認（スキルの評価）」

支援が本人の実際のスキルと合っているかを、普段関わっているスタッフが短時間に現場で実施できるインフォーマルアセスメントです。

スキルの確認の例

○コミュニケーション（受信・発信）について

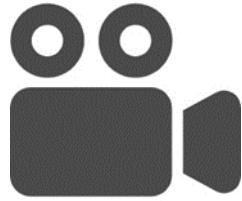
- ・言葉がどのくらい理解できているか
- ・嫌なときなどの表現の仕方
- ・活動の選択ができるか など

○認知について

- ・活動のやり方やルールを理解できているか
- ・スケジュールやタイマーなどの意味を理解できているか
- ・どのような視覚情報だと理解できるか
- ・文字、数字、色、矢印 など

○取り組み方について

- ・支援者の指示や手助けについての理解
- ・課題や指示には前向きに応じられるか など



動画の視聴

グループワーク | 支援手順書の修正

支援手順書を修正します

※支援手順書_修正用（グループ用）に修正点を書き込みます。

支援手順書/記録用紙

【作業場面】

ワークシート⑪:グループ用

日付け	2000年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員 B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）	
事前準備		「さぎょうカード」の準備 「きゅうけいカード」の準備 「おでかけカード」の準備 作業机に作業①をセットする			
移動	「さぎょうカード」を受け取り作業机に移動する	入口のところで待つ 田中さんが来たら「さぎょうカード」を手渡す ※テーブルに座らないように、田中さんとテーブルの間に立つ			
作業①	着席し作業①をする 終了したら作業②が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業①を片付け 作業②を机に置く			
作業②	作業②をする 終了したら作業③が出てくるのを待つ	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業②を片付け 作業③を机に置く			
作業③	作業③をする 終了したら「きゅうけいカード」を受け取る	作業中は横に立って見守り 作業が終わったら作業③を片付け 「きゅうけいカード」を渡す			
移動	休憩室に行く	休憩室に行くのを見守る			
休憩	休憩する	休憩中に作業道具を片付ける			

*「さぎょうカード」「きゅうけいカード」「おでかけ×カード」を作つておく

*「おでかけ」と言われた時の対応
・「おでかけ×」カードを見せて、今やっていることを続けてもらうようにする

*本人と関わる際の注意点
・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）

発 表

1. 支援手順書の修正内容

○支援の修正の方向性（参考資料）

記録に基づく振り返りのポイント

成果	<ul style="list-style-type: none">・支援することで、期待された効果があったか 例：自傷行為が減る、自立して活動に取り組める
本人の理解	<ul style="list-style-type: none">・支援の内容や使用したツールについて本人の理解 例：カードの意味がわかる、選択ができるなど
本人や家族の納得の度合い	<ul style="list-style-type: none">・支援について本人や家族の納得の度合い
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none">・計画に沿って支援現場で継続して実施できているか
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none">・本人への教授の仕方、促しかた、フェードアウト
その他観察できた特性	<ul style="list-style-type: none">・支援の中で観察できた本人の特性 例：終わりがわかると集中できる、情報が多いと混乱しやすい

支援の修正の方向性(参考資料)

成果	<ul style="list-style-type: none">・プラスの成果を踏まえて支援のステップアップの検討をする。・マイナスの成果を踏まえて支援を修正する。・本人の自閉症の特性やスキルを再確認する。
本人の理解	<ul style="list-style-type: none">・本人の理解度に合わせたツールを使用する。・本人が理解しやすい環境設定をする。
本人や家族の納得の度合い	<ul style="list-style-type: none">・本人、家族のニーズを再確認する。・家庭と事業所の認識の違いを埋める。
実施のスムーズさ	<ul style="list-style-type: none">・必要な時間に支援者を確保する。・タイムスケジュールを見直す。・必要に応じて上長に相談する。
支援者の関わり方	<ul style="list-style-type: none">・支援手順書の内容を周知徹底する。・過干渉になっていないか再確認する。・本人の特性やスキルに合わせた伝え方の再確認。
その他観察できた特性	<ul style="list-style-type: none">・観察できた行動、特性を今後の支援に活用する。

日付け	2000年〇月×日	氏名	田中正則さん	記入者	支援員 B
-----	-----------	----	--------	-----	-------

工程	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子（記録）
事前準備		活動カードの準備 予定確認カードの準備 作業×3の準備 個室にキラキラの準備	
移動	作業室②に行く 予定確認カードを受け取る	入口のところで待つ 田中さんが来たら予定確認カードを渡す	
予定確認	予定確認カードをポケットに入れ活動を確認する	予定確認カードを入れたら、活動を指さしながら読み上げる	
作業机に向かう	さぎようカードを取り机に移動してさぎようカードを貼る	本人がさぎようカードを取ったら離れて見守る	
作業①	マークを確認し作業①をする	離れて見守る	
作業②	マークを確認し作業②をする	離れて見守る	
作業③	マークを確認し作業③をする 終わったら予定確認カードを取る	離れて見守る	
予定確認	予定確認カードをポケットに入れ予定を確認する	予定を確認するのを見守る	
移動	きゅうけいカードを取り個室に移動してきゅうけいカードを貼る	休憩室に行くのを見守る	
休憩	キラキラを見て休憩する	休憩中に作業を片付ける	

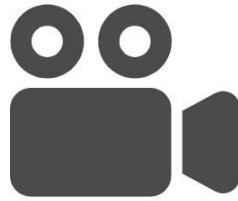
* 予定確認の場所、予定確認カード、さぎようカード、きゅうけいカードを作つておく

* 本人と関わる際の注意点

・声かけは最小限にする。（声かけが多くなると混乱しやすいため）

・予定を見てわかるように示す。

・作業の順番を同じマークを重ね合わせる方法でお知らせする。できるだけ自分で活動してもらうようにする

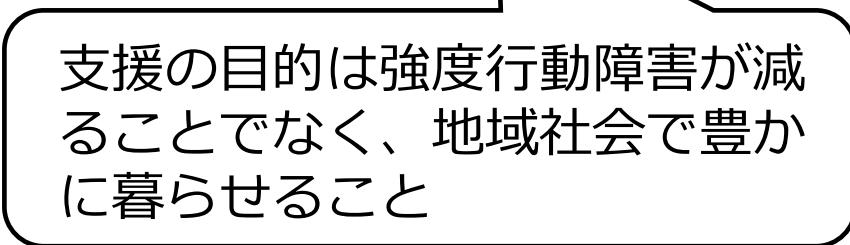


動画の視聴

支援手順書をより良いものに

「支援を広げる」

- ・ うまくいった内容を他の場面に広げていく
- ・ 特定の支援者から複数の支援者が関わるよう
- ・ アセスメントできた特性や手順を活かす
- ・ より自立できるように



支援の目的は強度行動障害が減ることでなく、地域社会で豊かに暮らすこと

まとめの講義

1. 支援手順書に基づいた支援を振り返り、改善していくことが重要です。PDCAのサイクルでより良い支援の実施を目指します。
2. 職員のために強度行動障害を改善することが目的ではなく、本人の生活の質が上がる事が大切です。